

## 教科等研究会（中学校特別活動部会） 令和3年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

互いのよさを出し合うことで、自主的・実践的に課題解決する特別活動  
～社会参画、人間関係形成、自己実現のねらいを明確にした集団活動の創造を通して～

### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	内容	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6月 15日	9名	御船町立 御船中学校	8月 3日	各学校 (リモート)	上益城郡 生徒会 交流会	11月 19日	益城町立 益城中学校	天野佑紀 教諭	11月 25日	御船町立 小坂小学校	角田香織 教諭

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

##### ① 主題設定の理由

これからの子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、豊かな感性を持って自分と周囲の人、各々の生き方を認め合いながら、よりよい社会、よりよい人生をどのように切り開いていくかを自ら考え、実践できる力を身に付けていくことが重要となる。

特別活動では、学級活動、児童会、生徒会活動、クラブ活動、学校行事等のよりよい集団活動を通して、学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育てていく。よりよい集団活動は、自分と異なる文化、習慣、生き方を認め合う土壌や協働性、集団への所属感、連帯感を育むことにつながる。それが学級文化、学校文化を醸成し、特色ある教育活動の展開を可能とする。

特別活動の目標に掲げられている「互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」よりよい集団活動の創造過程は、特別活動で育成する重要な資質・能力である「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」を実践的に身に付けていくための重要な機会となる。

よりよい集団活動をめざして、話し合い活動で合意形成された目標を基にして、一人一人が役割を分担する協働活動は、互いのよさを集団の中で具体的に生かし、個性と集団を伸ばしていく集団活動に他ならない。よりよい集団活動を創造していく活動を通して、「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」が育成されているかという視点を明確にもって実践していくことが不可欠である。

##### ② サブテーマ

##### ア 人間関係形成

人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成していくために、よりよい集団活動の中で、個人と個人、あるいは個人と集団という関係性を築いていくことが必要である。年齢や性別といった属性考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくるのが大切である。

##### イ 社会参画

社会参画の意識は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決していくために、自発的、自治的な活動を行い、個人が集団へ関与する中で育まれる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。

##### ウ 自己実現

現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする集団活動を通して、自己のよさや可能性を集団の中で生かし、試していくことで、自己理解が進み、自己のよさを生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力などが育まれる。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 各学校の特色のある生徒会活動について、学校のリーダー同士で情報交換ができ、生徒の視野を広げるよい機会となった。
- リモート形式の生徒会交流会ではあったが、発表や質疑、また、各校同士の返しを通して、交流会に参加した生徒の自己肯定感を高めることにつながった。
- 小学校高学年と中学校、それぞれの学級会の活動を参観できたことで、それぞれの実態をとらえるよい機会となった。
- これまで引き継いできた受験に向けての学級活動を、昨年度の、学級会による実践を踏まえて実践したことで、生徒の主体性を高める具体的な取組を検討することができた。
- 学級会の授業を通して、合意形成に向けた具体的な手立てについて学び合うとともに、討議を通してよりよい実践方法へと深めることができた。
- 授業者が、「板書型指導案」により授業を提案したことで、新たな形式の構想案について学び合うことができた。
- 生徒会交流会は、リモートではできることが限られてくるため、可能な限り、会場に集まったの交流会の実施を進めていきたい。
- 生徒が「互いのよさを出し合う」ために授業者が具体的な手立て実践していけるよう、視点を手立てにしぼって研究を深めていく必要がある。
- 様々な学習構想案の形式について研究していく必要がある。

4 実践事例

(1) 生徒会交流会 (ZOOMを用いてオンラインで実施)

- 1、開会、挨拶
- 2、実践報告 (各学校の参加生徒より実践発表5分、他校の参加生徒より、質疑5分)  
蘇陽中→嘉島中→御船中→木山中→益城中→甲佐中→矢部中→清和中
- 3、参加者感想発表 (各校から代表者1名)
- 4、講評、閉会
- 5、事後活動：感想を記入し、本部に提出。全参加者の感想をまとめた用紙を本部より各校に配付

(2) 授業の概要

単元の目標	(1) 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付ける。 (2) 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができる。 (3) 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。
単元終了時の生徒の姿	自己の役割を意識し、学級会等の話し合いで合意形成したことをもとに、みんなで協力し、進んで活動に取り組むことができる生徒
単元を通した学習課題	受験に向けて学級生活をよりよくする。
働かせる見方・考え方	よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする事。
生徒の実態	(資質・能力に関して) 学級をよりよくするために、話し合いを通して考えたいという思いや、学級会で決まったことにみんなで取り組みたいという思いを抱いている生徒が多い。一方で、なかなか学級会で意見を発表できなかつたり、決まったことにも積極的に取り組めなかつたりする生徒もいるので、日記や学級会の記録綴り等を活用し、学級のみんなの思いを拾い上げたり、少数意見の取扱に配慮したりしていく必要がある。 (学びに関して) 学級会が好きであり、みんなで話し合いをして意見がまとまっていくことに喜びを感じている生徒が多い。また、自分の意見を最後まで主張するわけではなく、友だちの意見を聞いてよりよい意見へと考えを変えることもでき、学級全体としての意見をまとめていくという意識も高い。そこで、折合をつける際の技能的な面や、少数意見だった意見の扱い方等を、学級の執行部を中心としながら丁寧に取り扱わせていく必要がある。

<p>指導上の留意点</p>	<p>○話し合う内容（学級や学校の諸問題）は生徒自身が見つけ、決定させる。  ○生徒に、話し合いの前に熟考させて、自分の意見をしっかりともち、話し合いの見通しを立てて参加させる。  ○意見が多くなりすぎないように、考える視点をもたせる。  ○話し合いにおける基本姿勢  ①発言を受け入れて（否定しないで）理解しよう。  ②簡潔にわかりやすく伝えよう。  ③全員が意見を出せるようにしよう。  ④共感や考えの変化を伝えあおう。  を理解させようとして、「熟慮」と「討議」を重ねながら課題解決を図らせる。  ○集団の考えの発展・統合、合意形成、納得を図らせる。  ○話し合いで決定した実践事項の反省・改善を行わせる。</p>
<p>授業者自評</p>	<p>・今回授業を通して、自分の思っていた結論までいかなかったのが反省点である。  ・司会の子は生徒会長で、うまくやってくれていた。「具体的にどういうことをすべきか」というところまで、いき着かなかった。  ・「なぜ、寝てはいけないのか。」という自分の思いを伝えてくれた子は、素直に伝えてくれていたと思う。議論が議題からずれてしまったが、普段は余り発言をしない子たちがよく自分の想いを伝えてくれて良かった。周りの子が、自分の考えを返してくれて良かった。</p>
<p>協議より</p>	<p>・自分の考える時間をどのようにとるか考えた。  ・事前に「自分にできることは何か」を考える時間をとる。  ・話し合い活動の中で、みんなの意見を聞いた後にもう一度考える時間をとった後に、「自分達に何ができるか」を考える時間をとるのがいいのではないかという話になった。  ・課題があって、課題を解決するために議題があるという順番がいいのではないか。  ・議題を具体的に「何のために集中するのか」と設定するといいいのではないか。  ・自分自身の意見を持ったうえで、全体で意見共有ができるといいいのではないか。  ・学級目標に立ち返ってみるなど、自分自身のために何ができるか考えていくことが大切である。</p>
<p>まとめ  蘇陽南小学校  永田裕通  校長先生   矢部中学校  富士川晶三  校長先生</p>	<p>嬉しかったことは、生徒が司会進行して話し合い活動を行い、主体的に学級会をやってくれていたことが嬉しい。若干ふざけているように見えるが、大事なところでは話をしっかり聞いている。司会者の切り返しも会を運営するうえでいい切り返しだった。もったいなかった点は、提案理由を述べてほしかった。また、本時の流れが不明であった。  内容1なのか内容3なのか、あやふやになっている。たとえば「みんながどんな不安を持っているのか」という事を出し合ってもよかったと思う。内容3の中で、自分自身が「寝ないようにしよう。」という思いを持てるならそれでもよかった。内容1の合意形成なのであれば、「授業を盛り上げるために、自分達に何ができるか」を考えてもよかった。一人一人が焦ったり、受験に向かって不安に思うこともあるだろうが、お互いに頑張ろうという視点につながっていけば、楽しい取組ができるのではないかと思う。中学校の学活をなかなか見る機会がないので、今日は見れて良かった。  忙しい時期ではあるが、無理を承知で授業者をお願いしたところである。目立ったのは、司会の子のリーダーとしての力が素晴らしかった。本日参加の先生方が質問された次の4点が、やはり自分も気になった。  ①合意形成の場で意見が偏ったりすることもある。だから、提案理由や学級目標に沿っているか、実戦可能であるか等、判断するために立ち返る物が必要となる。  ②事前の準備が大切だと思う。事前の運営委員会で大枠を決めておいて良いと思う。  ③パターン化し、学活の一連の流れを示しておくことが大事だと思う。  ④話合で大事なものは、決まったことではなく、その後の実践と検証である。  最後に、大変忙しい時期に今回の実践授業をしていただき、大変ありがたかった。</p>

『板書型指導案』 益城町立益城中 学校 3 学年 3 組 第 2 校時 授業場所 ( 3年3組教室 )

教科	学級活動	単元	学校や学級における生活上の諸問題の解決	授業者名	天野 佑紀
----	------	----	---------------------	------	-------

本時	( 3/4 )
----	---------

1 本時の目標 授業に集中するために、私たちにできることは何だろう。

2 本時の目標に迫るビジョン (目標達成のための工夫・アイデア)  
議題は「授業に集中するために、私たちにできることは何だろう」である。受検 (験) に向けて執行部を中心にクラスの見解をよく聞いたり、アンケートを行う等してクラスの問題点をお互いに出し合い、今回の議題を決めた。本時では、問題点の解決に向けてお互いの意見を積極的に出し合い、学級全体で合意形成ができるようにする。また、学級会後にみんなで決めたことに向かって協力していくことで、学級活動の楽しさや有用感を味わうことができる。

議題	授業に集中するために、私たちにできることは何だろう
課題	授業中に寝る人が多い。
←	何故寝てしまうのか
授業が退屈	疲れているから
面白くないから	授業に対する思いがないから
どのようにしたら皆が授業に集中できるだろうか	
・ 授業を楽しくする	
・ 積極的に発言する	
・ 授業中の私語をなくす	
・ 先生たちの声を大きくする	
・ ホイントをまとめる	
まとめ	
・ みんなで協力して眠っている人を起こす	
・ みんなで授業を盛り上げる	
・ 夜更かしをしない。	